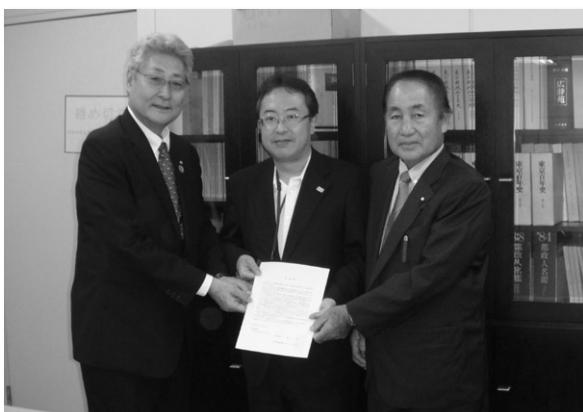




おがさわら 議会だより

第 107 号

平成 25 年 3 月 1 日発行 発行／小笠原村議会 編集／議会だより編集委員会 電話 04998-2-3118



おがさわら丸新造・硫黄島陳情要望活動

平成 24 年第 4 回村議会定例会

第 4 回定例会（議案審議）	2
一般質問	4
委員会報告	8
行政視察報告	10
議会の動き・編集後記	12

第 4 回小笠原村議会定例会
平成 24 年 12 月 7 日

【小笠原村事務手数料条例の一部改正】

どこを変えたの？



転出した方でも、公的援助などを受ける時に必要な書類は、手数料を減免するように改正しました。

【小笠原村議会委員会条例の一部改正】

どこを変えたの？



国の法律改正に伴い、関連する条文を整理しました。

予 算

【一般会計補正予算（第 3 号）】

衆議院議員選挙、都知事選挙にかかる事業費などの経費を計上しました。

【国民健康保険特別会計補正予算（第 2 号）】

【簡易水道事業特別会計補正予算（第 2 号）】

【下水道事業特別会計補正予算（第 2 号）】

【浄化槽事業特別会計補正予算（第 2 号）】

平成 24 年

第 4 回
小 笠 原
村 議 会
定 例 会

すべて賛成多数で
議決されました。
※分かりやすくお
伝えするため、正
式名称とは違う表
記をしているところ
があります。ご了承ください。

条 例

【職員の給与に関する条例の一部改正】

どこを変えたの？



国的人事院勧告に伴い、村職員の給与の規定を改正しました。

【小笠原村村税条例の一部改正】

どこを変えたの？



固定資産税の第 1 期の納期を 5 月 31 日に変更しました。

全額徴収の基準を変更しました。

これらをふまえて、小笠原村議会はここに、平成 25 年度末で失効する小笠原諸島振興開発特別措置法の改正・延長を強く求め、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出するものである。

平成 24 年 12 月 7 日

小笠原村議会議長 佐々木幸美
(提出先)

内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、
国土交通大臣、環境大臣
衆議院議長 参議院議長

意見書

小笠原諸島振興開発特別措置法の改正・延長を
求める意見書

小笠原諸島は昭和 43 年 6 月に我が国に返還され、その直後より特別措置法のもと、復興・振興開発が進められ、生活、交通、情報通信、産業振興等に必要な社会資本が整備されてきた。

昨年は、世界自然遺産への登録が実現し、我が国は、小笠原諸島の貴重な自然環境を人類共通の財産として、将来に渡って保全管理していく義務が課された。

また「海洋」が、我が国の経済社会の発展、国民生活の安定向上に貢献するとの視点で注目が高まる中、小笠原諸島の存在と、そこで我々が暮らし、周辺海域を利用しながら、社会・経済活動を持続していることの重要性が高まっている。

このような新たな環境変化に対応して、我々島民は、地元自治体ならではの役割を發揮しながら、自然環境と調和・両立した村づくりを目指すものである。

また、海底資源開発等の海洋政策が進められるうえで、我々島民の生活圏は、今後、その活動の拠点並びに本土と中継する太平洋上の海洋都市的な役割を担うと考えている。

これらを実現していくため、別紙に掲げる事項については、我々島民が今後とも小笠原諸島で、安全・安心・安定的に社会・経済活動を維持発展させ、定住を促進するために解決していくなければならない重点課題であると認識している。

その他

【小笠原村議会会議規則の一部改正】
何が決まったの？

↓
国の法律改正に伴い、関連する条文を整理しました。

【議員の派遣】

振興法の改正延長要望他。

次回は3月

議会だよりは、紙面の都合上、文章や内容を割愛したり、要約したりしてお伝えしています。
ぜひ、傍聴してみて下さい。

地デジの 11 チャンネルも
ご利用ください。

村民の声を村政に問う!!

一般質問

12月定例会



第4回定例会は、6名の議員から22件の一般質問がありました。

産業観光課長
外国人ア

小笠原の認知が全国的に広がった今、日本人旅行客に対しどのように来島の動機づけをするつもり

一木議員
医療体制の充実—おがさわら丸について



観光振興—外国人、日本人旅行者誘致について

に對し早期の実施を要望していく。外貨の両替業者にアンケート調査をして課題の整理をしては

どうか。訪日外国人旅行者、日本人旅行者そのためにも、おがさわら丸のイ

ンターネット予約・クレジットカード決済ができるよう小笠原海運に働きかけて欲しい。外貨両替システムの導入・ATMカードによる日本円引き出しの周知も必要。また、

一木 重夫 議員



MRIの導入について

全安心のため、おがさわら丸の中で映像による遠隔医療ができるシステムの導入を提案する。

医療課長 一木議員ご指示のシステムを導入することは、より的確な判断や対応をするためには一つの有効な手段。議員提案のシステム導入など、具体的な方法を整理した上で小笠原海運とも協議したい。

一木議員 島内にMRI導入について

議員がよく提案する研究成果などを(メディア等に)載せていく必要がある。時季に沿った客層に向かって小笠原の売り方もある。購入経費のほか維持に多額の費用を要する。早期の導入は困難と理解願いたい。

医療課長 MRIは初期購入経費のほか維持に多額の費用を要する。早期の導入は困難と理解願いたい。

一般質問

(5) 平成 25 年 3 月 1 日

おがさわら議会だより

日本の行方と小笠原の未来について
近年急激に変化をみせる内外情勢にいかに対応するか――

高橋議員 国政選挙も迫る中、①十三年余に及ぶ石原都政をどう振り返るか。②知事任期半ばでの国政復帰等は。③日本の現在の政治社会や経済、外交、安全保険状況等をどう考えますか。④村長の理想の国家像を伺いたい。

村長 石原知事就任後の空港予定地の白紙撤回、T S L の推進と就航断念がまず思い浮かぶが、エコツーリズムの登録が示唆の推進、都予算の対応に強力なり。ダーシップを發揮してもらつたことはなど村にとつて心強かった。国政復帰等の日本人判断と推察する。日本全体の状況を一地区自治体の長が議会で述べるのはふさわしくないが、私は日本を国民が誇りを持ち、親子、兄弟、家族のことをしてほししいやる国家になつてほ思つてはいる。



高橋議員 海洋基本法、離島振興法等により島の振興が図られていく。小笠原諸島振興審議会で「小笠原諸島を取り巻く諸情勢」トピックスが取り上げられたが、抛点施設の整備等では、南鳥島等での事業のため父島を輸送や医療要請の中継基地として使つていい事実もあり、その後の港湾施設の整備等につながることも考えられる。国の担当課と連絡を密にとるとともに、当方から状況発信ができる形をとるよう願うがどうか。

村長 今現在、南鳥島の工事が進められていくようだが、小笠原を中継地点として介する等の交渉は行つてあるところだ。議員の意見が議論の場と応代の変化に即応したく、どう願うがどう願いたい。

高橋 研史 議員

南鳥島等での拠点施設整備事業へのかかわりは

時代の変化に即応した体制を

指摘の話も既にしており、母島も含め中継基地としてのあり方とともに交渉を今後も続けていく考えだ。

新ははじま丸について
運行をするには

稻垣議員 平成 28 年度航行予定が二転三転し、はじめ丸の運行も変更が余儀なくされたが、その折の村の対応と経緯を聞きたい。利用客はその都度振り回される結果になつた。今後、大型で速い船の要望活動をしていくとすると、どう考

村長 総理大臣が本長を務める総合海洋行政部の政策本部の参与会議や、国土交通省の海洋政策や、懇談会が議論の場とされ、その結果として、具体的に動いてきた様々な方針で臨むが、それが現れるのはふさわしくないが、私は日本を国民が誇りを持ち、親子、兄弟、家族のことをしてほししいやる国家になつてほ思つてはいる。

稻垣 勇 議員

新ははじま丸について
運行をするには

した。これからも発信はきっちりし、こういうことを踏まえ要望活動をしていきたい。



台風等に振り回されない
運行をするには

稻垣議員 おがさわら丸が 10 月に台風の影響で運行予定が二転三転し、はじめ丸の運行も変更が余儀なくされたが、その折の村の対応と経緯を聞きたい。利用客はその都度振り回される結果になつた。今後、大型で速い船の要望活動をしていくとすると、どう考

村長 総務課長 台風 22 号、21 号の影響によりおがさわら丸の運行予定が三度変更となつた。村は、台風状況を確認しながら、運行会社から変更の都度依頼を受け、防災行政無線でははじめ丸の運行変更の村内広報を実施した緯だ。

稻垣議員 首都直下型東南海地震等が発生した場合、内地と村との交通・通信が遮断され、情報の収集、食料・燃料や医療の確保に重大な影響が予想される。村としての対応を伺いたい。災害時に衛星回線は使えるのか。また、災害時の食料自給率をどう考えているのか。

総務課長 東京都は防災計画の中で、発災後一週間をめどにライフラインを確保するとしている。村として災害物資備蓄は現在の三日分を七日分に進め、船舶寄港等により村内の食料、燃料等の確保に努めるとともに、情報報を関係機関に求めている。村としては東京都や農協と連携し、農地の流動化等で農業振興を進める中で自給率を高められるよう考えている。

稻垣議員 おがさわら丸が 10 月に台風の影響で運行予定が二転三転し、はじめ丸の運行も変更が余儀なくされたが、その折の村の対応と経緯を聞きたい。利用客はその都度振り回される結果になつた。今後、大型で速い船の要望活動をしていくとすると、どう考

稻垣議員 地震災害時の村の危機管理体制を伺う

片股議員 太陽の郷への入所希望者は今後増え続ける。入所に対する村民の不安を解消しどう期待にこたえていくのか。
村長 現在、入居予定者十名で全部屋が埋まる状況だ。中長期的に根本的な対応策を講ずる必要がある。
村民課副参考事 25年度から村内関係機関と協議して高齢者施策ビジョンを策定し、総合的なサービス提供体制構築を考えていく。

片股議員 全国の自治体で災害時に高校生を支援者とする取り組みが始まる。当村ではどうか。

総務課長 都立小笠原高校では防災隊を教職員と生徒で編成・整備している。村は協力体制を維持し、連絡調整、訓練等に努めた。

清潔なトイレを

片股議員 トイレが汚いといふ苦情を聞く。和式トイレからの改修ができないか。

産業観光課長 村内の公衆トイレへの意見や苦情はトイレ管理者にその都度伝えている。世界自然遺産登録後の村民意見交換会でも書を受けていた。村は府庁

片股議員 全国の自治体で災害時に高校生を支援者とする取り組みが始まっている。当村はどうか。
総務課長 都立小笠原高校では防災隊を教職員と生徒で編成・整備している。村は協力体制を維持し、連絡調整、訓練等に努めたい。

太陽の郷への待機高齢者

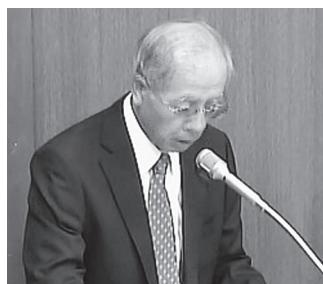
片股 敬昌 議員

片股議員 大地震が懸念される中、建築構造部材のほか構造部材の耐震化が求められているが、対応をどうするか。また、中央高速道路トンネル崩落事故の企業責任についてどう思うか。

総務課長 村有避難施設は耐震診断を行い改修を進めできている。非構造部材は今後の検討課題としたい。

村長 崩落事故は点検でやるべきことを怠った結果だ。事前の準備が肝要で、どういう事前準備が我々ができるか検討させていきたい。

般には入手できず、島内には薬局が一つという状況で、実施には困難な部分がある。今後もプロジェクトの動向は注視していきたい。



プロジェクトチームを立ち上げ、都道夜明け道路沿いの公衆トイレの設置に関する補正予算を計上した。青灯台のトイレは支庁施設だが、2月末ころには改修工事が、事も終わり洋式化される。公衆トイレだけでなく、商店、飲食店、宿泊施設等のトイレも含めて清潔感のあるトイレになるよう、観光地の認識を強く持つて行政も事業者も取り組んでいきたい。

二〇四

片股議員 溫暖化に伴い猛毒を持つ魚が見つかっている。青灯台や港の中で釣れる魚であり、観光客に特に注意が必要ではないか。

に迷材たる物質の濃度が高くなつた一部のアオブダ

笠原のブダイはナンヨウブ

原でパリトキシンやシガテ

テによる食中毒の報告はないと確認した。東京都で作成された注意喚起のチラシを参考に、誤解が生じないよう周知を図りたい。

佐々木
幸美議長



10月4日 総務委員会行政視察（宮古島市・石垣市）（議員同行）

10月10日 北関東防衛局に硫黄島関連事業の陳情、意見交換（議員7名同行）

11月6日 東京都総務局行政部長へ、新おがさわら丸建造の要望（議員7名同行）

11月13日 東京都町村議会議長会現地研修会（青ヶ島村）

11月14日 同役員会臨時総会出席

11月14日 小笠原諸島振興開発審議会及び町村議会議長全国大会出席

国大会出席

委員会	
活動報告	
平成24年12月7日	【小笠原諸島世界自然遺産について（継続）】
世界自然遺産地域連絡会議 業（父島母島村民意見交換会） ・小笠原派遣動物診療 これら事業について経過 報告。今後、第2回村民意見 交換会等を実施していく。	現在母島は集落内の避妊去勢がすべて完了し、来年度以降、北港などの山域の対策をすすめていく。母島は体制づくりが一番の課題。今後、捕獲隊の育成など母島のネコ対策を行なっていく。

総務委員会	
委員長 稲垣 勇 副委員長 片股 敬昌	現在母島は集落内の避妊去勢がすべて完了し、来年度以降、北港などの山域の対策をすすめていく。母島は体制づくりが一番の課題。今後、捕獲隊の育成など母島のネコ対策を行なっていく。
【浄水場の移転について（継続）】	企画政策室の2名が自然管理専門委員の手伝いをする体制になつていています。今後、運営会議なども実施していく予定です。
【防災道路の整備について（継続）】	この工事は、沖ノ鳥島と南鳥島に設置するため、工事の実施はまだ予定されています。

設を25年度で予定している。

【沖ノ鳥島・南鳥島について】

- ・国の工事関係の概要について、沖ノ鳥島は環境調査を、南鳥島は浚渫を実施している。
- ・小笠原の返還記念日を定める条例の制定に向けて議論を重ねている。
- ・ほかの自治体の例として、奄美市と沖縄県における条例制定について報告がありました。

- ・簡易宿泊施設を設置し、約80名の工事の方々が生活している。
- ・南鳥島に視察に行つた際は、大きな施設はなかった。工事の体制、また事故の対応はどうなっているのか。
- ・南鳥島に視察に行つた際は、大きな施設はなかった。工事の体制、また事故の対応はどうなっているのか。
- ・日本の工事関係の概要について、沖ノ鳥島は環境調査を、南鳥島は浚渫を実施している。
- ・この工事は、沖ノ鳥島と南鳥島に設置するため、工事の実施はまだ予定されています。

答 父島と母島と事業を分けて行なつてある。父島は山域の捕獲がほぼ終了し、集落内は避妊去勢手術・マイクロチップ装着が完了している。

問 野ネコ対策はどこまで進んでいるのか。北港や南崎の地域はどのように進めているのか。

答 父島母島村民意見交換会等を実施していく。

問 浄水場の跡地については、どのように考えているのか。

答 いろいろな方々の意見を聞きながら土地利用計画を作り上げることになる。

問 日本の領土、国境離島の価値を見直すためにも、ぜひ村長議長にみて貰いたい。また、45周年事業で沖ノ鳥島にいけるように努力してもらいたい。

答 父島と母島と事業を分けて行なつてある。父島は山域の捕獲がほぼ終了し、集落内は避妊去勢手術・マイクロチップ装着が完了している。

問 野ネコ対策はどこまで進んでいるのか。北港や南崎の地域はどのように進めているのか。

答 父島母島村民意見交換会等を実施していく。

問 浄水場の跡地については、どのように考えているのか。

答 いろいろな方々の意見を聞きながら土地利用計画を作り上げることになる。

問 日本の領土、国境離島の価値を見直すためにも、ぜひ村長議長にみて貰いたい。また、45周年事業で沖ノ鳥島にいけるように努力してもらいたい。

答 父島と母島と事業を分けて行なつてある。父島は山域の捕獲がほぼ終了し、集落内は避妊去勢手術・マイクロチップ装着が完了している。

問 野ネコ対策はどこまで進んでいるのか。北港や南崎の地域はどのように進めているのか。

答 父島母島村民意見交換会等を実施していく。

問 浄水場の跡地については、どのように考えているのか。

答 いろいろな方々の意見を聞きながら土地利用計画を作り上げることになる。

問 日本の領土、国境離島の価値を見直すためにも、ぜひ村長議長にみて貰いたい。また、45周年事業で沖ノ鳥島にいけるように努力してもらいたい。

特別委員会報告



硫黄島調査特別委員会

委員長 一木 重夫
副委員長 片股 敬昌

平成 24 年 12 月 7 日開催

【NLP(日米再編)について】

- ・NLP 実績なし

【遺骨返還について】

- ・遺骨収容事業の通常派遣特別派遣の実施について報告

【その他次の事業について報告】

- ・硫黄島 LCAC 訓練実施
- ・旧島民平和祈念公園事業
- ・旧島民墓参実施（都主催）
- ・特定防衛施設周辺整備調整交付金

【硫黄島の訓練を視察した感想を聞かせてほしい。】

〈片股副委員長〉

- 答** 村は、国の防衛政策に対し、協力していくが増大は認めないという姿勢をとっているが、特に硫黄島の LCAC 訓練に関しては、東日本大震災後、防災の観点が加わった。



小笠原空港開設・航路改善特別委員会

委員長 池田 望
副委員長 一木 重夫

平成 24 年 12 月 7 日開催

【空港開設に関する経過報告等について】

- ・訪問者などについて報告

【意見】

- 同意であり、村としてもその点を発信している。もつと強く発信していかなくてはならない。

【答】

- 地元の交付金が増えるとその他の防衛費が落ちてくるのではないか。その点を勘案して要求していくべき。

〈高橋委員〉

【来年度の硫黄島訪島事業に不安が残る。実施に向けてどう進めていくのか。】

〈片股副委員長〉

- 答** 隆起の状態は、中・長期で考えないといけない。最低考えないといけない。最低限の旧島民の墓参、子どもたちの訪島は実施したい。

【滑走路 1,200 メートル必要な第三種空港がネックになっているのではないか。その考えているのか。】

【答】

- 選挙で選ばれた任期の中で期限をつけることははじまないと考えているが、任期中になんとかめどを付けるための努力をしていく。

【航路改善に向けた経過報告等について】

【答】

- 航空路は翻弄され続けてきた。村長は期限を切って進もうとはしないのか。

【答】

- 選挙で選ばれた任期の中で期限をつけることははじまないと考えているが、任期中になんとかめどを付けるための努力をしていく。

【航路改善に向けた経過報告等について】

【答】

- 組織改革を来年度以降に向けているが、その中でもなどを創設して、役場の組織体制も航空路に向かっていく姿勢を見せるものではないか。

【答】

- 村長は 3 期目に当選したとき、航空路が最重要課題と掲げた。航空路推進課や航空路推進係などを創設して、役場の組織体制も航空路に向かっていく姿勢を見せるものではないか。

【ははじま丸更新による要望活動について、村長はどのようなに考えているのか。】

【答】

- 第三種都営空港 1,200 メートルに固執してはいない。民生安定のための定期航空路開設が目標だ。

【最大限母島の皆さん希望をとりいれた良い船にしていくよう進めて行きたい。】

【答】

- ははじま丸更新による要望活動について、村長はどのようなに考えているのか。

【最大限母島の皆さん希望をとりいれた良い船にしていくよう進めて行きたい。】

【答】

- 最大限母島の皆さん希望をとりいれた良い船にしていくよう進めて行きたい。

小笠原村議会総務委員会 行政視察報告

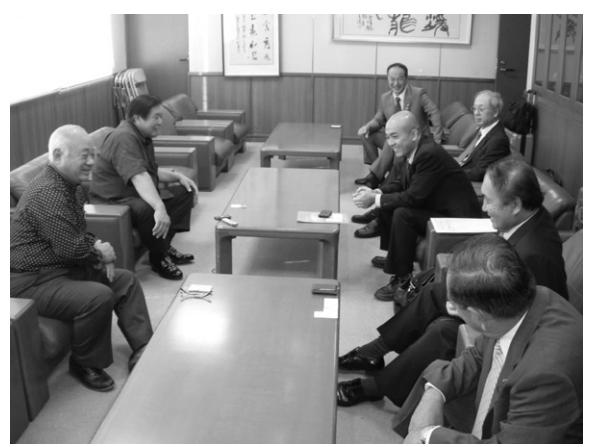
日 程 平成24年10月4日～10月6日

視察先 1班～沖縄県宮古島市・石垣市
(佐々木議長、杉田・一木・片股・高橋委員)
2班～岩手県葛巻町(稻垣委員長、池田委員)

村議会総務委員会において、沖縄県並びに岩手県に行政視察を実施いたしました。視察先は、いずれも資源循環型社会形成に取り組んでいる地域であり、これらの先進事例を視察、研究するため2地域を選定し、委員会を2班分けして行いました。

1班 沖縄県

宮古島市では、企画政策部エコアイランド推進課において、資源循環型社会形成への取り組み状況を調査し、風力並びにメガソーラー発電実証施設、地下ダム施設の視察、下地市長並びに平良議長を表敬訪問しました。



石垣市では、国境離島の諸問題について情報交換するため、漢那副市長並びに伊良皆議長を表敬訪問し、新石垣空港、WWFサンゴ礁保護研究センターを視察しました。

2 班 岩手県

葛巻町において、新エネルギー施設等の視察を町が設定している「新エネコース」によって視察しました。コース内容は、ゼロエネルギー住宅・木質バイオマスガス化発電施設・蓄ふんバイオマスシステム・風力発電所・中学校太陽光発電等でした。また、鈴木町長並びに高宮副議長を表敬訪問し、新エネルギー導入の取り組みについて情報交換をしました。



以上 2 地域の行政視察を実施しましたが、いずれもクリーンエネルギー推進は、島・町づくりの一部分であり、他に様々な施策、工夫、努力がなされていることを実感しました。エネルギーの地産地消は、小笠原のような離島こそ実践すべきことで、様々な自然エネルギーを組み合せば、化石燃料の使用を抑制する効果があります。また、安定的なエネルギー供給には、従来型のエネルギーも必要があり、今後はこれらのベストミックスを基本に村づくりに役立てなければならない。いずれにしても小笠原村ができるだけ早い時期に自然エネルギーの導入するよう提言するものです。

議会の動き

<12月>

- 5 日 議会運営委員会
- 6 日 第 4 回村議会定例会本会議
- 7 日 総務委員会
硫黄島調査特別委員会
小笠原空港開設・航路改善特別委員会
第 4 回村議会定例会本会議
- 26 日 例月出納検査

<1月>

- 1 日 海開き
- 成人式
- 6 日 武道始め
- 7 日 出初式（母島）
- 13 日 出初式（父島）
- 21 ~ 23 日 定期監査
- 22 日 例月出納検査
- 24 日 硫黄島行政視察

<2月>

- 18 日 島しょ町村議長会定期総会、合同会議ほか
- 19 日 都町村議會議長会
小笠原諸島振興開発審議会

- 議会だよりは、紙面の都合上、文章や内容を割愛したり、要約をしたりして掲載しています。
- ぜひ、議会を傍聴してみてください。
- また、会議録のお問い合わせはこちらへどうぞ。

お問合せ先

小笠原村議会事務局

TEL 04998-2-3118 FAX 2-3208



次回の定例会は

3月中旬開会

の予定です



※村役場・福祉センター・
母島支所のテレビで議会
中継をご覧になれます。
ぜひご利用ください。

小笠原村にありますては、平成 25 年度が小笠原諸島振興開発特別措置法の改正延長の前年度になります。村議会にありますても同法の改正延長に向けた、要望活動等を村と共に推進してまいります。国並びに都の体制が大きく変わりましたが、新体制とも良好な関係を築きながら、取り組みを続けていく所存です。3 月の定例会では、平成 25 年度の村の予算を審議いたします。村民の皆様の傍聴をお願い申し上げます。

第 4 回村議会定例会終了後の 12 月 23 日に衆議院議員並びに東京都知事選挙が施行されました。結果については村民の皆様もご存じのとおり、国政は自公連立による安倍政権が、都政は猪瀬新知事がそれぞれ誕生しました。国においては、経済再生を最優先に取り組む強い姿勢を強調しています。株価は上昇し、円は安に転じ、景気の好転への期待感が先行しています。都においては、石原前都知事の政策を継承し、防災都市づくり、オリンピック招致等に引き続き取り組みます。

編集後記